

親子で楽しむ町内の文化財

パートII

3 本荘の浜街道

今月は、本荘地区を通る道を紹介します。今では地域の人が使う道ですが、今から300年前にはよく知られ、多くの人の紀行文にもでてくる道です。



▲ここから松巡りがはじまった



- ① 桜
- ② 松
- ③ 紅葉

【クイズ】
この道が有名なのは、道沿いに何があったからでしょう。

「歴史の宝宝箱」と言われている播磨町。町の面積は狭いけど、文化財の数は多く、少し歩けばそこかしこに、地域の人びとが昔から大切に受け継いできたものがあります。そのような街角の文化財を紹介していきます。

【問い合わせ】郷土資料館 079 (435) 50000

本荘2丁目・3丁目・4丁目を、東西に貫く道の一つです。それは阿閉神社から東へ行くときは、玉垣に沿って、山手にかすかに曲がり、軽自動車がやっと通れる所を通り、少林寺のすぐ前が出る道です。そのまま東へ行くと、まもなく道に沿って用水が流れ、趣が増し、かつての華やかさを思い浮かべることができます。

この道が、江戸時代には、松巡りの道として知られていました。もちろん、東西を結ぶ道としては、今のジャスコの前を通る西国街道が有名です。しかし、少し旅に余裕のある人は、明石市清水から浜手へ、二子を通りこの浜街道に入り、松を愛でながら、姫路へ向かいました。阿閉神社の「阿閉の松」は松巡りの東端の松で、このあと、別府の「手枕(たまくら)の松」、浜の宮の「天神の松林」、尾上神社の「尾上の松」、曾根の「曾根の天神の松」へと続きます。

今、改めてこの道にたずみますと、この道を歩いた清川八郎にとって、新撰組の母胎をつくるなど、あの幕末の嵐の中で、唯一、心穏やかなひとときを過ごした道ではと想いが膨らみます。

西国街道の脇道にあたる浜街道。そこには、本街道にはない豊かな文化が育まれています。そしてこの道にも、育まれた心の豊かさがにじみ出ているのを感じます。



●クイズの答 ② 松



町の人口 5月1日現在

34,253人(+1人)

(住民基本台帳人口+外国籍人口)

男...16,772人(-6人)

女...17,481人(+7人)

世帯数...13,144(+23)



古紙配合率100%再生紙を使用しています



Trademark of American Soybean Association

